



8月ほけんだより



令和7年7月25日
はなほこども園

看護師 *****

* 夏の感染症と 皮膚トラブル *

日本の夏は暑くて湿気が多く、近年は、さらに厳しさを増しています。健康状態を維持するのは、とても大変です。また夏は、手足口病やプール熱などのウイルス性の感染症や、あせも、とびひといった皮膚トラブルが多くなる季節です。

手足口病

【症状】

- ・手のひら、足、ひじ、おしり、口の中などに水疱が出ます。
- ・熱は 38℃程度で、出ない時もあります。
- ・髄膜炎や心筋炎、脳症を合併することもあります。



とびひ(伝染性膿痂疹)

【症状】

- ・虫刺されやあせもを掻いた傷から菌が入り、水疱やかさぶたができます。
- ・掻き壊すと体のあちこちにうつります。
- ※ガーゼなどで覆えない場合は登園を控えていただく場合もあります。



ヘルパンギーナ

【症状】

- ・突然 38～40℃の高熱が出ます。
- ・のどの奥に小さな水疱が出ます。
- ・乳幼児はよだれが増えることもあります。



水いぼ

【症状】

- ・伝染性軟属腫ウイルスにより1～5 mmの白く水っぽい光沢のあるイボができます。
- ・掻くと、広がったり、とびひになったりすることもあります。



咽頭結膜熱(プール熱)

【症状】

- ・突然 39～40℃の高熱が出ます。
- ・のどの痛み、目の充血、リンパ節の腫れがあらわれます。関節痛、頭痛、下痢を伴うこともあります。
- ※症状がなくなり、2日経過するまで出席停止となります。登園には医師の許可が必要です。

あせも

【症状】

- ・汗を出す汗管がふさがって、汗の出口がなくなり、首や背中、お腹などに水疱ができたり、痒みを伴う炎症がおきたりします。
- ・炎症が強い場合は皮膚科を受診します。

* こんな場所でも
熱中症に注意しましょう *



* 医療費助成受給者証
コピーの提出のお願い *

【プール】

水中では、汗をかいていることを実感しづらく、のどの渇きを感じにくいので、意識して休憩をとり、こまめに水分を補給しましょう。



【車】

夏場は車内の温度はすぐ上昇するため、短時間でも子どもを車内に残すことは危険です。また、キーの置き忘れや誤操作などによって子どもが閉じ込められてしまうこともあるため、十分に注意しましょう。

一関市内にお住まいのお子さんの、『医療費助成受給者証』の有効期限が切り替わる時期となりました。

新しい『医療費助成受給者証』のコピーを 8月4日(月)までに提出をお願いします。

